▣義民宗吾（五巻）

帝キネ時代映畫

脚色並監督者　森　要氏
撮影者　梅津　逢也氏

――主要役割――

木内宗吾　片岡　童十郎氏
渡守甚兵衛　横山　運平氏
おさん　大月　光子嬢
幻長吉　嵐　繁代氏

〔略筋省略。〕

佐倉義民傳の内の妻子の別れと直訴の件りを平凡に映畫にしただけのもので何等の新味も人間味も持ち合せない黒劣な舊式映畫である。でも女優を使用し雪のロケーションを應用して居る丈は昔の映畫より進歩して居る。森要氏の監督は評するの要はない。氏の作品は帝キネ映畫の内でも一段レベルの低いものであると思つて見れば間違ひはない。童十郎氏の宗吾は立派。横山運平氏の甚兵衛は何も氏を煩はす程の事はないが役どころには相違ない。直訴の件りの將軍の行列は一寸立派。直訴の場面は遠慮かカットか知らないが全然なかつた。―山本　綠葉―興行價値　―佐倉義民傳の一部分に過ぎないから宗吾樣を師つて大袈裟の宣傳をするのも考へもの故添物程度を出ない映畫であろう。

（三月六日、大阪芦邊劇場封切）